

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年12月2日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892400029		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター守谷	ユニット名	一番街
所在地	〒302-0105 茨城県守谷市薬師台五丁目17番地8		
自己評価作成日	平成27年3月30日	評価結果 市町村受理日	平成27年12月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0892400029-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0892400029-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年5月25日	評価機関 決済日	平成27年12月2日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員の定着率とチームワークの良さが介護の質につながっている。特に力を入れている事は「快食・快眠・快お通じ」

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は閑静な住宅街のはずれに立地し、近くに公園や散歩専用の道路があり、四季の移り変わりを楽しめる環境となっている。  
職員は家庭的な雰囲気の中で利用者に寄り添い、行動を制限することなくその人らしい生活ができるよう支援している。  
管理者は職員と日頃から何でも話せる関係を築くなど、風通しの良い働きやすい職場の環境づくりに努めている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭らしくを理念に、「ここは自宅。一番安心できる場所」を職員全員が努めている。また、玄関にも掲示し、家族や地域の方々とも共有している。ホーム会議時に理念の確認および共有することがよりよいホームづくりに繋がっている。	「家庭 一番安心できる場所」として事業所独自の理念を作成しているが、地域密着型サービスの意義を踏まえた内容までには至っていない。理念を玄関に掲示するとともに、職員は日々各自で確認するほか、月1回の職員会議時に再確認をし、共通認識のもと実践に努めている。	管理者と職員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成することを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、総会やゴミ拾い、避難訓練に参加し地域の一員となっている。また、市域の小学校の下校パトロールに参加し、子どもたちや地域のかたがたとの交流を楽しんでいる。	自治会に加入し、利用者と職員と一緒に地域の清掃活動や避難訓練に参加しており、地域の一員として地域住民と交流ができるよう支援している。  踊りやオカリナ、ハーモニカ、琴の演奏など、地域のボランティアや中学生の職場体験を受け入れているほか、地域の小学校の下校パトロールに利用者と職員が参加するなど、利用者が地域住民とつながりながら暮らせるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談などで、介護保険の申請、認知症についてなどわからないこと、心配なことについてお話させてもらっている。散歩や下校パトロールなどで会う地域の方々との交流が重要に考える。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、市役所、ご家族、利用者の方々を中心に貴重な意見を頂戴し、議事録に残している。その内容を全職員が理解して実践に役立てている。	運営推進会議は家族等の代表や地域包括支援センター職員、民生委員、管理者、職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の活動内容や行事予定、入居者状況を報告しているほか、参加者と意見交換を行っている。  「グループホームを市民の方に知ってもらうためにチラシを作ってはどうか」との意見を受け、職員会議で検討し、市に協力を依頼した結果、守谷市がチラシを作成することになるなど、出た意見等をサービスの向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状の報告及び相談をさせてもらっている。	管理者は運営推進会議や年2回開催されるグループホーム連絡会を利用して、市担当者に関する相談をするほか、入居手続きで分からないことを直接、市の福祉課に出向いて相談し助言を得るなど、情報交換をすることで日頃から協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社の方針は、「身体拘束をしない」だが、危険を伴う場合は「緊急やむをえない身体拘束に関する同意書」の取り交わしをし、早期の解除に努めるようにする。	管理者は法人の身体拘束排除マニュアルを基に、内部研修を行うとともに、ミーティング時に身体拘束排除に関する話をするなど、日頃から身体拘束をしないケアの実践に努めている。 玄関は施錠しない支援をしているが、2階は構造上、階段から転倒の危険があるため、特に帰宅願望が強い利用者が入居している場合には、利用者や家族等に書面で説明して同意を得、階段入口のドアを施錠している。 □	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社資料の高齢者虐待防止の手引きをもとにホーム会議にて話し合う。虐待とは一体なんなのかを根本的などころから理解し直し、職員一人ひとりの虐待の防止、発見に努めていくようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社のマニュアルを用いて成年後見制度や日常生活自立支援事業についての勉強会を開催している。利用者の人権尊重は基本的なことと理解して支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては時間をかけて十分理解を頂いてから勧めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話にて多くのご意見や要望をいただいている。それを運営に反映させることが信頼関係に繋がることだと考える。	利用者からは日常の問いかけや会話の中から、家族等からは来訪時や運営推進会議、イベント時などに意見や要望を聴くように努めているほか、年1回家族会を開催して家族同士の交流の場を提供するとともに、意見を出し易い環境を築いている。 「音楽を頻繁に取り入れて欲しい」との家族からの要望を受け、実践している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議、ユニット会議などで職員一人ひとりの意見を言える場を設け、全員で話し合い、反映出来る様にしている。職員一人ひとりの考え、意見が運営には大切である。	管理者は月1回の職員会議で、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。 職員から出た意見を受け、フラットシートをボックスシートに替えたり、備品の購入や勤務体制の変更など、出た意見等は運営に反映している。 管理者は日頃から職員に話しかけてコミュニケーションを図り、職員が意見や提案を出し易い環境を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度や資格手当制度にて介護福祉士の取得者が増えた。非常勤者から常勤者への登用も有る。職員の働きやすい環境づくりに努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修に参加している。社外での研修だけではなく、社内での研修や勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	事業所連絡会や他の福祉施設との交流がとても勉強になるのだが、現状同業者との交流の機会が少ない。年2回のグループホーム連絡会へ出席している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人とお話する時間を必ず作り、現状の問題となっている原因を追究できるようにしている。また、言動や表情からも不安なことや困っていることなどをつかむことができるように面談は本人のペースで出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時にホームをまず見学してもらい、ここでの暮らしやケア方法について理解をもらう。その上で困っていることや心配事をお話いただいている。その内容はケアプランにもりこんでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申し込みや見学時に事前調査させていただき、当ホームだけではなく、現状にあったサービスを色々と提案、説明させていただいている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭らしく職員も家族の一員として暮らしの中にいるようにしている。利用者より教えていただくことも多く、よりよい信頼関係が出来ている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケア職員と家族とともに家族関係や絆を大切にしながら、共に支えてもらうように申し込みや契約の際に話をさせてもらい、実践している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方には出来るだけ面会に来ていただけるようお願いし、馴染みの場所にも訪問できるようにしている。また、馴染みの物も入居の際に持参していただくようにしている。	入居時に利用者や家族等から話を聴いたり、基本情報シートを活用して利用者のこれまでの生活歴や馴染みの人、場所などを把握している。 職員は利用者の馴染みの人がいつでも気楽に来訪できるよう、お茶を出して接待するほか、家族等の協力を得て馴染みの理容室や図書館、自宅へ行けるようにするなど、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のよりよい関係づくりに努め、孤立せず共同生活を楽しめるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もボランティアで演奏に来ていただいたり、手紙等で近況をお聞きし、相談にものらせていただいている。災害時には物資（オムツ）の寄付をいただいた。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の要望、意向を聞き、また把握したうえでケアプランを立てている。今までの大切にしてきた生活習慣を続けていけるように努めている。	職員は利用者がその人らしい暮らしが続けられるように、日常の関わりや会話を通して希望や意向の把握に努めるとともに、毎日の業務日誌に記録したり、職員会議で話し合ったりして共有している。 意思表示が困難な利用者の場合は、日々の生活の中での表情やしぐさから、利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネージャー等より十分な時間をかけてアセスメントを行っている。生活歴や馴染みの暮らし方等を把握して、よりよい暮らしを支援できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが残存能力を活かした生活ができる様に努めている。職員間での情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、再アセスメント、担当者会議、必要時に応じて行い、それぞれの意見を介護計画に反映させ作成している。	介護計画は利用者や家族等の希望を取り入れ、担当者会議で話し合い、計画作成担当者が意見をまとめ作成し、家族等に説明して確認を得ている。 短期目標は6ヶ月、長期目標は12ヶ月を基本とし、6ヶ月毎にモニタリングを実施して見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態やケアの実践内容等を記録し、職員間で情報共有している。そして今後の実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応がもとめられるため、臨機に対応するように、職員の予定シフトを変更したり、出勤の職員を多くして対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	下校時の見守り隊や地域の避難訓練に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族に主治医は選んでいただいている。内科だけではなく、歯科、眼科、皮膚科も往診してもらっており、安心して適切な医療を受けられるようになっていく。受診記録をとって家族に報告している。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診は、家族等の付き添いを基本としているほか、協力医療機関の医師による月1回の訪問診療が受診できるよう支援している。 協力医療機関とは24時間連携体制を築いており、安心して適切な医療を受けられるよう支援している。 受診結果は随時家族等と報告し合い、受診記録に記載している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での情報や気づきなどは主治医にこまめな情報提供および相談をしている。主治医より受けた指示により、適切な医療が受けられるように支援している。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、現状と今後の治療方針の説明や家族、主治医、相談員との話し合いに同席させてもらい、情報交換や相談をして、早期に退院できるように体制づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行わないことを契約時に説明しているが、重度化や終末期が予想される場合は、主治医、本人、家族と話し合いをして、その際に事業所で出来る事を十分に説明させていただいている。そのうえで、介護職として出来ることを実践している。	契約時に法人の方針で看取りを行わない旨を利用者や家族等に説明しているが、実際には看取りの経験があり、今年4月にも実施している。重度化や終末期が予想される場合には、主治医や利用者、家族等と話し合い、事業所でできることを説明して看取りの対応をしているが、重度化や看取りに向けた事業所の対応指針を管理者や職員、医療関係者で話し合って作成し、明文化するまでには至っていない。	終末期支援について、法人と事業所で十分に話し合っ方向性を統一し、「看取りに関する対応指針」を作成するとともに、定期的に内部研修等を行うことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをもとに発生時に混乱しないように、手順や対応について訓練、勉強会をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防隊立会いのもと、火災を想定した訓練を行っている。夜間を想定した訓練も実施している。地域の方々との交流の際、協力をお願いをしている。	消防署立会を含め、年2回の避難訓練は実施しているが、地域住民の参加や、夜間想定訓練では利用者を交えての訓練に至っていない。訓練の実施記録はあるが、消防署立会いの避難訓練の実施記録を作成するまでには至っていない。災害に備えて3日から4日分の米や食料品、飲料水、毛布などを備蓄している。	災害時に地域住民の協力が得られるよう、運営推進会議や自治会等を通して避難訓練への参加を働きかけることを期待する。利用者を交えた夜間想定訓練を実施するとともに、訓練で明らかになった課題等について話し合い、実施記録を作成して次回の訓練に活かすことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権を尊重し、ほこりやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。記録の記入もアルファベット4文字表記にしている。個人情報の取扱い同意書も契約の際、取り交わしている。	職員は利用者の個性やこだわりを把握し、一人ひとりの人格を尊重しながら、排泄介助や入浴介助時には小声で声かけ誘導をするなど、周りの利用者にも配慮しながら対応に努めている。 個人情報を使用する場合は、使用目的を明記して利用者や家族等の同意を得ている。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかる書棚に保管し、情報の漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が意思決定出来る様に支援している。重度化の場合でも表情や言動より汲み取る様にしている。職員が決定することは極力なくしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にしている。家庭らしい本人の生活リズムが出来る様に起床、食事、入浴、入床等を行っている。レクの内容や献立、外出先や外食先なども希望に添うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の方の協力のもと、その方の希望の髪型に散髪してもらっている。整容や服装にも気をつけるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には、利用者と献立を決め、調理や配膳、食事、片付けを一緒に行っている。包丁を使ってもらったり、洗い物をしてもらったりしている。	献立はその日の担当スタッフが利用者の意見を参考にして決め、食材を地域の八百屋やストアに発注し、毎日配達してもらっている。 職員が調理をして利用者と一緒に同じ食卓を囲みながら温かい食事を摂っている。 利用者は能力に応じて配膳や後片付け、テーブル拭き、食器拭きなどの役割を担いながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を管理、把握し、必要摂取量に満たない場合は、献立や調理方法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に合った口腔ケアを実施している。また、義歯は週一回、薬品をつけて洗浄、殺菌をおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄管理をし、できるだけトイレで排泄できるように支援している。トイレへの声かけや誘導することによって、自立で排泄できるようにしている。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らって声かけ誘導し、トイレで排泄ができるように支援している。 おむつを使用していた利用者に対して、職員は表情や仕草から気づき、トイレ誘導を試みることによりリハビリパンツに改善している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防の為、食事の工夫で食物繊維の多いものを調理したり、水分摂取に努めたりしている。排泄管理はもちろんのこと、体操や運動を取り入れたり、場合により、排泄時に腹部マッサージを取り入れたりもしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴するときは、一人ひとりに合わせて実施している為、本人の意向を大切にしている。入浴で楽しんでいただけるように入浴剤を使用したり、バラの花びらを浮かべたり、季節感を出したりして支援している。	入浴は週2回を基本とし、利用者の希望にそっていつでも入浴ができる体制になっている。入浴を拒む利用者には強要はせず、時間帯を変えたり、声かけする職員を替えるなどの工夫をしている。入浴剤を使用したり、バラの花びらを浮かべるなど、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中にリビングに居たり、居室に戻ったりと自由な時間を過ごせるように支援している。日中の活動性をあげるようにして、夜間の良眠にも繋がっていると思われる。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりについての既往歴や現病歴も含め、薬名、目的、副作用を理解している。食前薬、食後薬など、服薬の支援については、手順に沿って対応するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役目をもってもらったり、仕事をしていただいたりと張のある生活になるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や外食を定期的に行くようにしている。普段行けないような場所については家族に協力していただいている。ほとんどの家族が遠出を希望されていない為、近くの場所で回数を多くして支援していく。	天気の良い日には事業所周辺を散歩したり、庭で弁当を食べるなど、五感を刺激して四季の移り変わりを楽めるように支援するほか、介護タクシーを利用して花見や外食に出かけるなど、気分転換が図れるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の金銭管理はむずかしい為、常時所持してもらうことは行っていない。金庫にて管理をしている。欲しいものがある場合は、お小遣いの中から支払ってもらっている。お小遣い帳に領収書を貼付して写しを毎月、家族に送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状を出すための葉書の準備や代筆の支援を行っている。家族からの電話の取次ぎや希望によって、本人からかけられるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレに張り紙をしたり、季節に応じた壁飾りを作成している。常に居心地良く過ごせるように心がけている。	玄関先に季節の花を植えた鉢を置いたり、食卓や部屋の片隅にも季節の花を飾るなど、季節を感じてもらえるよう配慮している。 食堂兼居間は明るく広々としており、ソファや椅子を配置したり、畳のスペースを設置するなど、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 居間から続くウッドデッキには自由に出ることができ、開放感のある空間となっており、利用者は気軽に外気浴を楽しんでいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気のあった利用者同士が思い思い過ごせるように席替えや机の配置を変えるなどして工夫している。また、いつでも居室に行くことは自由になっている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れたものや気に入っている物などで今までの生活に極力近づけるような環境づくりをしている。居室のレイアウト等も本人や家族の意見や意向を取り入れている。	居室はクローゼットやカーテン、エアコンが備え付けられている。 利用者は居室にベッドやテレビ、椅子、箆笥など使い慣れた物品を持ち込んだり、家族の写真などを飾っており、居心地よく暮らせる場所となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全第一だが、そればかり追求してしまうと過剰な介護になってしまうため、自立支援に必要な時は、包丁も使っていただいたり、階段を使用したりと一人ひとりにあったことを取り入れている。			

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 ニチイケアセンター守谷

作成日 平成27年12月15日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	管理者と職員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成することを期待する。	管理者と職員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成する。	月一回の管理者と職員とで話し合い、独自の理念を再作成する。	1ヶ月
2	33	終末期支援について、法人と事業所で十分に話し合っ方向性を統一し、「看取りに関する対応方針」を作成するとともに、定期的に内部研修等を行うことを期待する。	「看取りに関する対応方針」を作成し、定期的に内部研修を行う。	管理者会議にて、支店と看取りに関する対応指針について話し合いを行っていく。	12ヶ月
3	35	災害時に地域住民の協力が得られるよう、運営推進会議や自治会等を通して避難訓練への参加を働きかけることを期待する。 利用者を交えた夜間想定訓練を実施するとともに、訓練で明らかになった課題等について話し合い、実施記録を作成して次回の訓練に活かすことを期待する。	地域住民の協力もと、利用者を交えた夜間想定訓練を実施する。また、避難訓練実施記録を作成する。	運営推進会議や自治会にて避難訓練への参加を呼びかけを行い、地域住民にも前日までに声かけをする。また、訓練ごとに避難訓練実施記録を作成し、次回に活かす。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。